

## 平成30年度 第2回滋賀県公立大学法人評価委員会開催結果（概要）

日 時 平成30年7月2日（月）  
14時00分～15時55分  
場 所 滋賀県立大学 教授会室

【出席委員】 長上委員（委員長代理）、磯田委員、清水委員、前野委員

【事務局】 前田私学・大学振興課長、他関係職員

【県立大学】 廣川理事長（学長）、堺井副理事長、倉茂理事、山根理事、田端理事、  
井手環境科学部長、南川工学部長、水野人間文化学部長、甘佐人間看護学部長、  
久保田事務局次長、他関係職員

### 1. 開会

○委員会の進め方について

- ・委員会の進め方について、事務局から説明

### 2. 学内調査（視察）

○授業見学

○近江楽座活動紹介

【参加チーム】 あかりんちゅ、滋賀県大生き物研究会、木之本こじへいプロジェクト

- ・参加チームから活動の紹介
- ・学生との意見交換

（大学）発表ありがとうございました。10分程度の時間となりますが、ただいまの発表について、ご質問等あればお願いします。

（委員）とても興味深い報告で、活動の中身もしっかりとしているので、すごく良い活動と感じました。

質問ですが、それぞれの団体は、サークルや学科、ゼミなどの母体や集団があって、活動しているのでしょうか。各団体の成り立ちについて教えていただきたいです。

（あかりんちゅ）彦根市のキャンドルナイトのイベントでエコを謳っているのにもかかわらず、使用したキャンドルが廃棄されていたことに疑問を持った環境科学部の学生が集まって活動が始まったと聞いています。設立は8年ほど前で、サークルとして活動しているのではなく、近江楽座の団体として活動しています。

（生き物研究会）「滋賀県大 BASSER'S」が前身となっています。BASSER'S は外来魚の駆除に関心のあった有志の学生の集まりから始まりました。捕獲するための網や釣り竿などの道具をそろえるため

には資金が必要ですので、団体として助成を受けるため設立したのが始まりです。

(こじへい) 「こじへい」という麴屋さんを改修することを目的として、環境建築デザイン学科の学生が中心となって設立した団体です。

(委員) (「木之本こじへいプロジェクト」の活動報告で展示された街並み連続立面図を見て、) Tシャツを作って売ってはどうか。ビジネスに結びつけるつもりはないのでしょうか。

(こじへい) 現時点では、そこまで考えていません。少人数の学生で活動しており、イベントなどは、地域の方々と一緒に実施しています。建築関係の学生が中心であり、ゆくゆくは古民家を改修して、湖北地域における活動の拠点を作っていくことを目標に活動しています。

(委員) 卒業してからずっとやるビジネスではなく、学生間の活動だけどビジネスにもつながる、ということができれば、おもしろいと思います。

(大学) 昨年度立ち上がった団体で、今後の活動になるのかと思います。近江楽座の活動の中には、ビジネスにつながっているプロジェクトもあります。

(委員) 近江商人発祥の滋賀県ですので、大志を持ってがんばってほしいと思います。社会人になっても続けるというのではなく、学生である4年間にお金になるビジネスになると非常に良いなと思います。

(委員) 近江楽座の活動は、地域貢献だけで終わっているのでしょうか。「あかりんちゅ」では収支が一致しているとのことでしたが、他の団体の活動の中にはビジネスにつながるものも、多分にあるのではないのでしょうか。

(あかりんちゅ) 「あかりんちゅ」では、お寺から短くなって使えないろうそくを寄附してもらっており、その他にもリユースしている材料が多く、材料費があまりかからないため、イベントの依頼料をもとに、大学からの助成を受けずに活動しています。

(大学) 「あかりんちゅ」は近江楽座の中では唯一、大学からの助成を受けずに自力で活動するSプロジェクトとして採択されています。

(委員) ろうそくも廃棄しようとするれば産業廃棄物であり、処理には莫大な費用がかかります。ただで引き取っていただけるとするのは、お寺としても大変助かっているはずです。

#### ○アクティブラーニング教室の視察

### 3. 質疑応答

(委員長代理) それでは、あと20分あまりですけれども、質疑・意見交換を行いたいと思います。視察の案内について、ありがとうございました。ここからは各学部長にも臨席いただきますので、大学から各学部長のご紹介をお願いします。

・理事長から各学部長の紹介

(委員長代理) ありがとうございます。それでは、学内をご覧いただきまして、ご感想やご質問等がありましたら、自由にご発言いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(委員) 7月1日から全国安全週間が始まっているのですが、実習工での授業を見学しました際に、安全めがねをかけていない学生が見受けられました。重いものを運ぶことがないためだと推測されますが、スニーカーの学生もいました。

機械加工現場では安全靴を履きなさい、加工に携わる時には安全めがねもしくは指定のめがねを装着しなさい、ということを守らせたい、というお願いしたいと思いません。

今後企業で働こうという学生にとっては、今が一番大事な時期だと思いますので、学生の間から安全教育の基礎を徹底してほしいと思います。

(大学) この件は重要なポイントだと思いますので、肝に銘じておきます。

(大学) ご指摘ありがとうございます。実験実習の前には安全教育を実施していますが、完全には守られていなかったようです。また履き物については、スリッパやサンダル等は禁止としていますが、安全靴の着用までは指示していません。

(大学) 安全靴は用途が限定的であることから、学生がなかなか購入しないため、学生に安全靴の購入を強制することは難しいのが現状です。一方、安全めがねは、実習工場に備えてあり、共用しています。なお、卒業研究で研究室の配属が決まった段階で、研究室単位になりますが、安全靴の購入を強制しているところもあります。

(委員) 今は安全靴も3千円程度でリーズナブルになってきていますので、これは教育に関わることですので、難しいと言わずに、ぜひ購入していただきたいと思います。

(委員) 実習工場の実習は、教材として捉えているのでしょうか。商売の話ではないのですが、民間企業等との連携には発展しないのでしょうか。

(大学) 職業訓練校や工業高校とは異なり、大学では作るという工程がどういった工程をたどるのかを知っておくことがポイントになっておりまして、何か製品を作ることを目的とはしておりません。

(委員) 企業から依頼を受けることはないのでしょうか。

(大学) 大学内から、試験片の依頼や実験装置の部品などの依頼を受けることはあります。学外から受注するとなりますと、本学の実習工場の工作機械では、民間の機械と比べ精度が低く、企業が求める水準の製品を作成することは困難です。

(大学) 企業ではスピードが重んじられるため、授業のプログラムに受注のタイミングを合わせていくことは非常に難しいです。

学内でも、本学の自転車置き場など、学生が設計して造った施設設備もありますが、授業のペースに合わせていくと1年がかりの作業になります。

(委員) 実習工場で伺った話では、卒業生が来て、実習工場で体験をしたことは非常に有効だったとよく話されているということでしたが、その限られた精度のもので、本当に有効だったのかが気になりました。

(大学) 卒業生が有効だと言いましたのは、実際の現場に近い工程を学んだことが、社会に出て役に立った、という意味で、精度についての話ではなかったのだと思われます。

(大学) 一般の工科系の大学では、本学で行うような実習をしないところが多く、現場を知らないうまま、設計を行って、卒業します。また、実践力だけであれば、高等専門学校でも十分に身に付けることができます。本学では、実践力だけではなく、実習を経験して現場のことも分かり、設計もできて、理論的なことも理解できる、という教育を行っています。

(委員) 実習工場での授業は非常に素晴らしい取組で、昨今の機械工学部では、工具を使わないこともあるようです。私のところでは現場を知らない機械工学部の卒業生もいました。安全への配慮も含めて、今後とも続けてほしいと思います。

(委員) 滋賀県立大学は全体が広々としていて、気持ちのいいキャンパスで素敵だと思う反面、しっかりとメンテナンスの計画を立てなければ、目に見えて修繕する必要が生じた時には手に負えなくなるような部分も出てくるのではないかと危惧しております。

シチュエーション的にも湖の横で傷みやすい場所だと思いますし、開学して20年以上と伺いましたので、そろそろいろいろな問題が出てくるころかと思います。長期スパンでの具体的な計画を作成しないといけない時期に差し掛かってきているのではないかと、視察するたびに実感しています。

せっかくきれいな夢のある建物群であるので、50年後に県民の憩いの景色やあこがれの景色になるようなことを目指して、計画的にメンテナンスしていただきたいと思います。

(大学) ご指摘のとおりだと思います。一昨年の3月に学舎長寿命化のための長期保全計画を策定したところです。約30年間のスパンで施設設備の更新計画を作成しました。

しかしながら、財源がなければできませんので、財源については県と折衝しているところで、恐らく県の予算編成の中に組み入れてもらえるのではないかという見込みをしています。

来年度以降、数億円単位で、施設設備の更新に資金を投入できると思っていますので、メンテナンスに万全を期していきたいと思います。

(委員) 電球などを始め、標準化できる場所もたくさんあると思いますので、個別の特徴を残しながら、メリハリを付けた計画を作成されることを期待しております。

(委員) 近江楽座の活動発表は興味深く拝見しました。これからの大学に求められている一つの在り方だと感じました。

近江楽座の年間の予算はどのくらいなのでしょう。また、学生の自主性が大事ですが、実際にはコーディネーターや担当する指導教員の力がかなり必要なのではないかと思います。そのあたりのことをお聞かせ願いたいと思います。

(大学) 制度上では1団体あたり50万円を限度に補助することとしていますが、実績ベースで見ると1団体あたり25万円程度の補助となっています。その他パンフレット等の作成費用も含めて、800万円程が近江楽座の予算となっています。

また、指導教員は必ず各プロジェクトチームに1人は就いていますが、基本的には、学生の自主活動という位置づけですので、教員が全て指揮する訳ではありません。指導教員には初めのうちは地域と学生の間でのリエゾニックな役割を担っていただきますが、活動を続けていくうちに、学生の方が地域と触れ合う時間が長いため、学生の方が地域と近い関係になってくるというのが実態です。

(委員) 活動としてもうまく継続されているプログラムだと認識しています。

(大学) 近江楽座の活動には継続のプロジェクトが多いです。地域としても1年間で活動が終わってしまうと困りますので、継続していくことは非常に良いことだと考えています。一方、学生は卒業していきますから、プロジェクトを継続していくことは難しいのですが、頑張っている状況です。

(委員) 学内での学びも大きいと思いますが、学外での学びもものすごく大きく、地域の方から「ありがとう」と言われると余計にやる気が上がりますので、良いプログラムだと思います。

(委員長代理) そろそろ時間なのですが、その他ご意見ありませんでしょうか。特によろしいようであれば、本日はこれまでにしたいと思います。今日は本当に暑い中ありがとうございました。教室も含めて良い視察をさせていただきました。ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

#### 4. 閉会